



広報の馬がら



5月号

No. 127

川をきれいにしましょう

冬の間、雪などといっしょに、捨てられたゴミや炭ガラで、すっかりよごれた川をきれいにと、5月10日、町青年団員、約50名がまちのなかを流れる来馬川（常盤橋と富士橋間の500㍍）の川ざらいをしました。

この日は春とはいえ、まだ、はだ寒い日でしたが、集まった青年たちは、わたしたちの住むまちをわたしたちの手できれいにしようと、特ながをはいてゴミを一掃し、きれいな川にしました。

なお、青年たちは住みよいまちをつくるため、川にゴミを捨てないよう住民に呼びかけていました。

町の財政事情

町では、毎年2回町の財政事情をお知らせしていますが
今回は、44年度の予算がどのように執行されているかを、
3月31日現在で図表によりお知らせします。

目的別にみた一般会計予算執行状況

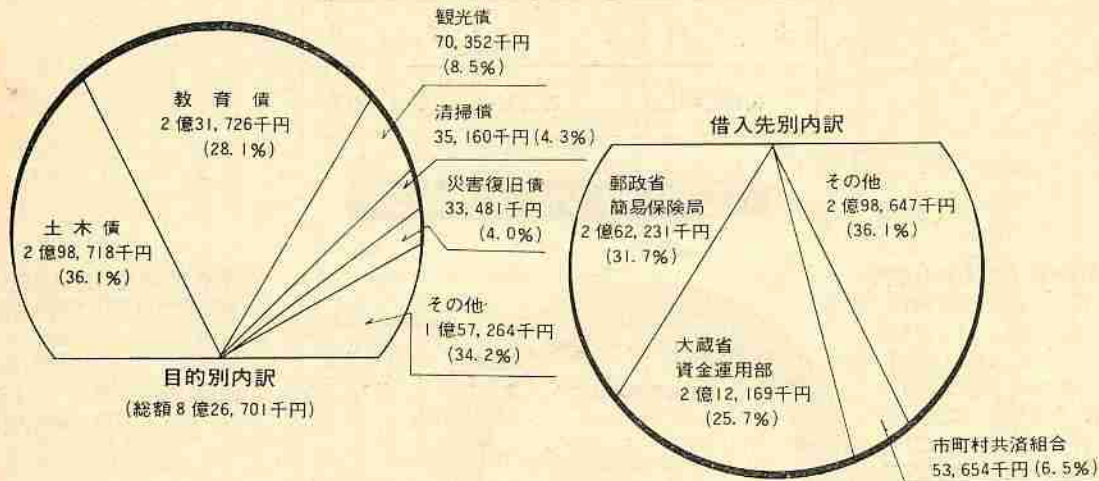
歳 入		昭和44年度 一般会計予算額 (二億二八、八七四千円)	歳 出	
3億75,187千円 (94.0%)	町 税		2億49,239千円 (81.3%)	教 育 費
2億62,994千円 (106.8%)	地方交付税		2億43,747千円 (65.1%)	土 木 費
2億04,600千円 (70.3%)	町 債		2億35,990千円 (96.0%)	総 務 費
1億50,335千円 (45.2%)	諸 収 入		1億46,352千円 (97.7%)	農 林 水 産 業 費
1億06,991千円 (80.3%)	国庫支出金		82,868千円 (98.6%)	公 債 費
82,647千円 (91.1%)	道支出金		82,591千円 (97.0%)	労 働 費
31,091千円 (100.0%)	繰 越 金		79,016千円 (94.5%)	民 生 費
1億4,935千円 (97.7%)	そ の 他		73,289千円 (82.3%)	消 防 費
			1億95,720千円 (80.9%)	そ の 他
収入済額 11億50,111千円 (86.5%)	予算額	執行済額	支出済額 11億37,463千円 (85.6%)	
	() 内執行率			

※説 明※

昭和44年度の予算は、登別市実現を目前にひかえ、急伸する町勢に対処するため、財政の健全化に努めながら施政の目標である「都市的環境の整備促進」、「産業基盤の確立」、「教育行政の推進」、「行政経営の近代化」の達成のため執行され、諸事業の完成をみております。その主なものは次のとおりです。

- 都市的環境整備……町道舗装工事 (2523m, 3569万円)、防災排水路整備事業 (26カ所, 4215万円)、公園新設工事 (2カ所, 551万円)、富浜児童館建設事業 (500万円)、公営住宅建設工事 (48戸, 4377万円)
- 産業基盤の確立……農免道路工事 (1600m, 5080万円)、富岸地区かんがい排水事業 (888m, 4375万円)、登別工業用地取得 (44644㎡, 2585万円)
- 教 育 行 政……登別小学校増築工事 (3918万円)、幌別東小学校建設工事 (4177万円)

町で借りているお金

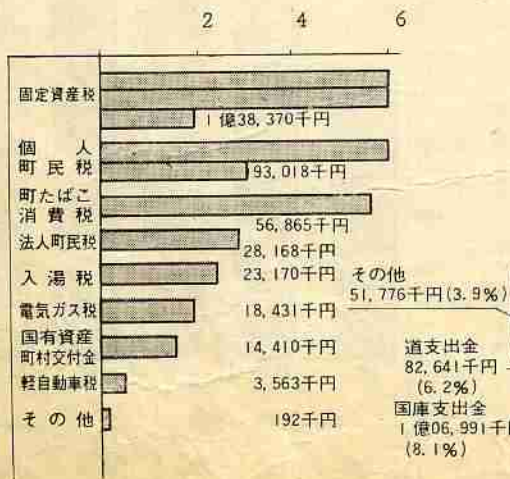


※説 明

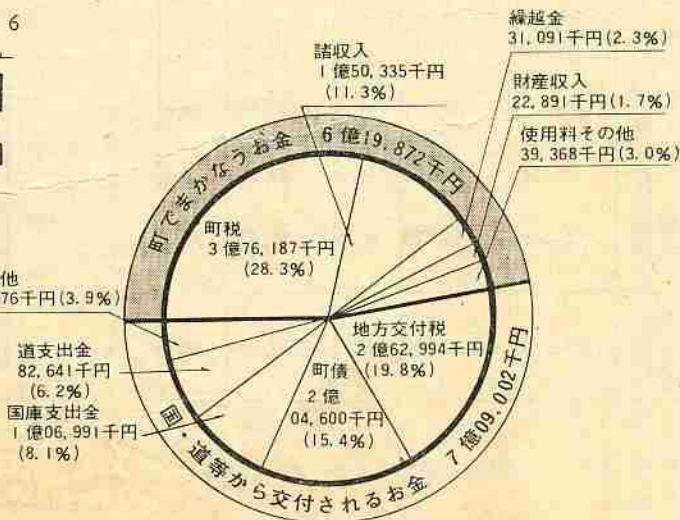
町が行なう事業のうちで、その年の収入では事業費をまかなえないような、規模の大きな事業には、国などからお金を借りて、事業の遂行にあて、翌年以降の収入で借入れたお金の返済をしていく方法をとっています。上表はこの借入金の借入先と、借入現在高を示しています。これまでに国などからの借入によって施行した事業の主なものは、次のとおりです。

- 教育関係……幌別中学校増築工事(昭35年)、幌別中学校屋体新築工事(昭38年)、札内小中学校改築工事(昭39年)、鷺別中学校改築工事(昭42年)、鷺別小学校・鷺別中学校増改築工事(昭43年)、幌別東小学校建設工事(昭44年)
- 土木関係……登別駅前広場造成事業(昭37年)、紅葉大橋新設事業(昭42~43年)、防災排水路整備事業(昭41~44年)
- 災害復旧関係……幌別小学校火災復旧事業(昭28~30年)
- その他……し尿処理施設新設事業(昭39~40年)、母と子の家建設事業(昭41年)、富浦生活館新設事業(昭43年)、登別温泉消防出張所新設事業(昭43年)、富浜児童館建設事業(昭44年)

町税の内訳



一般会計予算の財源内訳



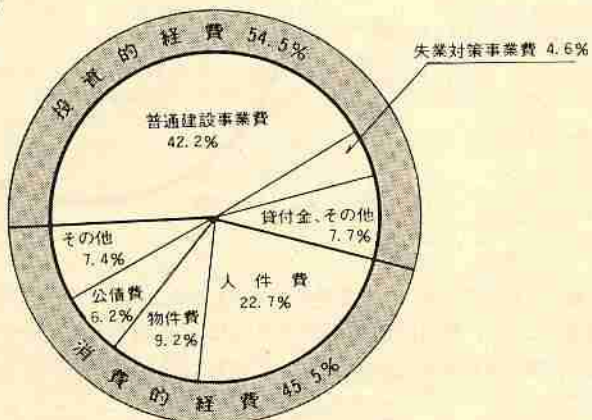
町有財産の内訳

土 地	建 物	金 員
2,998,351㎡	73,176㎡	1億46,629千円

性質別にみた一般会計歳出予算

◎消費的経費 6億04,634(千円)

人件費	3億02,241
報酬	10,724
給料	1億44,853
手当	1億23,860
共済,その他	22,804
物件費	1億21,671
用品費	39,187
用品の他	21,017
償の他	61,467
その他	82,668
その他	98,054



◎投資的経費 7億24,240(千円)

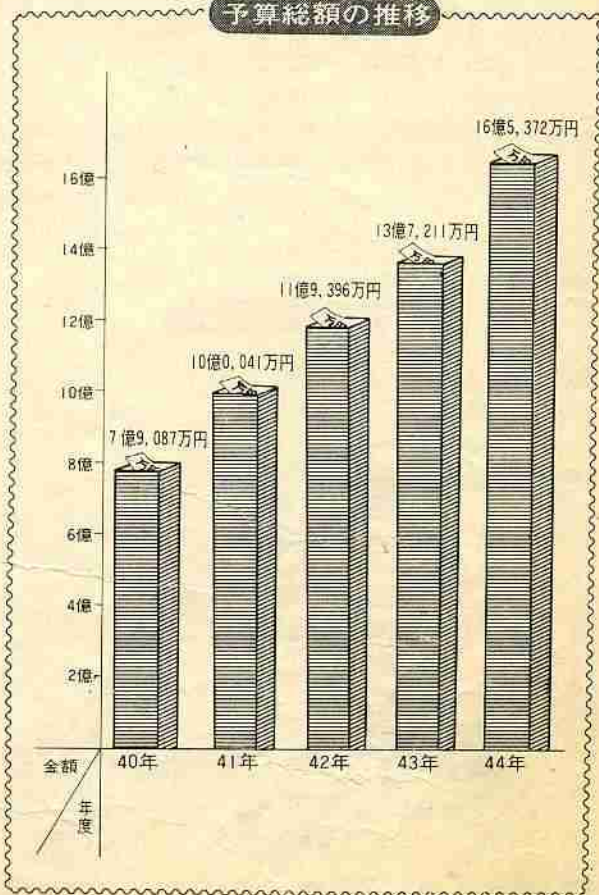
普通建設事業費	5億61,226
補助事業	2億67,264
単独事業	2億93,962
失業対策事業費	61,202
貸付金・その他	1億01,812

特別会計予算執行状況

(単位千円)

区分 会計別	予算額	歳 入		歳 出	
		収入済額	率 %	支出済額	率 %
国民健康保険特別会計	99,724	91,043	91.3	79,389	79.6
観光事業特別会計	1億21,725	62,271	51.2	1億08,348	89.0
清掃事業特別会計	45,515	21,056	46.3	43,863	96.4
学校給食事業特別会計	57,878	46,588	80.5	55,434	95.8
合 計	3億24,842	2億20,958	68.0	2億87,034	88.4

予算総額の推移



登別町総合開発計画から

先月号は、文化施設の将来計画についてお知らせしましたが、今月号は、厚生施設と保安防災計画がどうなっているかをお知らせします。

◆厚生施設

国民経済の高度成長は、生活水準の向上をもたらす一方、いろいろな不みも社会問題となつてあらわれつつある。すなわち所得格差の拡大からくる生活保護世帯の増大、平均寿命の伸長による高齢人口の増加、青少年の非行化、交通災害の増大など、早急に対策が要望される問題が増加している。

本町において将来人口の増加、産業の発展が期待される反面、こうした社会問題もしいに顕在化してくるものと予想される。

各社会福祉施設の設置にしても一地方公共団体のみで解決するには広汎すぎ、行域的な見地に立つて、その質、規模から運営まで考慮していくべきである。

○生活保護施設

低所得者に対しては、その更正授産指導をおこなうとともに、救護施設、授産施設を設置する。

○老人福祉施設

高齢人口の増加に対しては、老

後の生活の安定化をはかるため、老齢福祉年金制度を拡充するほか健康診断の徹底、老人相談指導を積極的におこなう。また、老人福祉センター、養護老人ホームなどの設置をはかるべきである。

○児童福祉施設

児童の健全な成長をはかるために一方には、健全な家庭をつくることが重要であり、さらに社会的な育成の場としての保育所、児童館、児童公園などの整備拡充も必要である。

○母子福祉施設

離婚、交通事故などの死別による、母子家庭が増える傾向にありこうした母子家庭に対しては、相談所の設置、住宅面での対策、さらに生業対策をすすめる。

○身体障害者福祉施設

交通、労働災害などによる身体障害者は将来ともふえつつあり、医療施設の充実をはかるとともに相談指導を強化して、自立更生を目指す、各障害者に対してリハビリテーション施設を広域的な連携のもとに、登別温泉地区に設置する。

○精神薄弱者援護施設

これまでの収容保護的な性格の強い施設から、今後はさらに精神

薄弱者自身のためにも、また社会のためにも、もっと積極的に治療訓練、教育の効果をあげることが出来る施設が望まれる。

◆消防

火災の発生は、市民生活の質的向上に伴ない、一般にその要因が増大するとみられる。

全国における、昭和二十九年から三十八年の十年間の火災発生状況を国民所得の伸びと対比してみた場合、国民所得水準の約二倍の向上に対し、その発生は約八十倍増の傾向があらわれている。

また本町の場合、目標年次(昭和六十年)まで約三万人の人口増が見込まれ、これに火災発生の一般的傾向を準用すると、目標年次(昭和六十年)においては、今日に比して二・三倍、件数にして年平均四〇・五〇件の発生が予想され、これに対する対策を講じなければならぬ。

将来における本町の消防力を、将来人口七万三千人をもとに、想定しこれに対する施設規模は下の表のとおりとなる。

消防車(小型動力ポンプを除く)は、将来二五台必要となり、

将来の人口分布状態と対応させる、鷺別八台、幌別九台、登別三台、登別温泉五台の配分になる(登別温泉地区は、観光入込客も含む)団員、職員数は現在の不足数を充足することが先決であるが目標年次(昭和六十年)においては、消防車に対応して、約四百二十三人(二交替制)が必要とされる。

職員()の消防消耗を考えると、基準人員を充足すること、さらに三交替制も考慮すべきである。水利施設については、消火栓、貯水槽のうち、適正規模以下のものを引き上げるとともに、将来の人口集中地区、家屋の密集地区、

老朽地区、大規模建築物周辺の状況にに応じて、各種水利施設を設置すべきである。その他、建築物の査察強化、防火相談、消火器の家庭保育に対する助成措置、協力団体の育成および防火思想の啓蒙普及につとめるべきである。

消防施設規模算定

署所名	ポンプ車		面積		人員		面積		合計面積	
	署所	分団	署所	分団	署所	分団	署所	分団	署所	分団
本部	台	台	㎡	㎡	人	人	㎡	㎡	㎡	㎡
署直轄	6	3	180	90	89	52	890	520	1,070	610
登別温泉	3	2	90	60	34	40	340	400	430	460
鷺別	5	3	150	90	64	52	640	520	790	610
登別	1	2	30	60	20	40	200	400	230	460
合計	15	10	450	300	230	193	2,300	1,930	2,750	2,230

外出するときの注意

行楽シーズンをむかえて

行楽シーズンをむかえ、野に山に家族そろって出かけることが多くなりましたが、楽しい外出も、ちょっとしたゆだんから、思わぬ災難に合うことがあります。おでかけのときはつぎのことに気をつけましょう。

あきすの予防

- ・カギは外から見えないところに二重にかけましょう。
- ・隣近所に頼んでから外出しましょう。

スリ・置き引き

ひったくりの予防

- ・外出するときは余分なお金や貴重品は持たないようにしましょう。
- ・カバンやハンドバッグに、お金

花見シーズンは酔っぱらい運転、かみなり族の横行などによる事故が多くなります。

人も車もゆずりあいの気持を持って、交通法規をよく守り、事故を起こさないようにしたいものです。

○車を運転されるかたへ

車が交差点や横断歩道にさしかかったときは必ず除行して、まわりの車や人にじゅうぶんに注意し人が横断歩道を渡ろうとしているときは、一時停止をして歩く人のじやまをしないようにしましょう

交通のほげしいところは、

注意しましょう 食中毒

行楽シーズンになると、とかく気持ちいが浮かれて事故を起こしが

つねにまわりの人や車に注意して、安全を確かめながら運転しましょう。

車は、スピードをあげても時間的には、それほど差のないものです。たとえ急いでいるときでも、法定速度で走りましょう

○歩行者へ

歩行者にとって、もともと危険なのは道路を横切るときです

道路を渡るときは、かならず横断歩道を利用し、車の進行にじゅうぶんに注意しながら、運転者にわかるように、ツキリ手

ちですが、食品による事故も例年多いものです。

とくに折り詰めによるものが多いようですが、折り詰めによる食中毒の原因は細菌によるものが大部分で、集団赤痢が発生することもあるので、注意しなければなりません。

折り詰めによる

食中毒を防ぐには

- できるだけ早く食べること
- 買ってから何時間もたつてから食べることがあるようですが、注意したいものです。
- 衛生的で注文量に見合った店を選ぶこと

能力以上のものを引き受ける店があるので、注意しなければなりません。

で合図して渡りましょう。

横断歩道のない場所では、かならず、右、左の安全を確かめてからまっすぐ渡りましょう。

道路へ急にとび出したり、斜め横断をすることは、たいへん危険です。歩行者優先といつても、交差点や横

交通安全

断歩道をゆっくりに歩いていたり道路で立ち止まって話をしたりまた信号にしたがわずに歩いていたのでは、車がたいへん迷惑します。

いつも交通のきまりを守って正しく歩くように心がけましょ

○細菌の繁殖しやすい料理をさけること

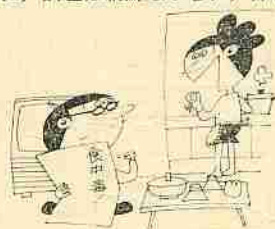
卵焼、かまぼこ、きんとん、サラダなどを献立内容から除くのも一つの方法です。

○家庭でつくる場合

家庭でつくったものが一番よいのですが、その際はつぎのことに注意してください。

- ・手指の清潔を保ち特に傷口のあるときは料理はさけること。
- ・料理はできるだけ濃い味付けにし、火通しをじゅうぶんにこなうこと。
- ・調理してすぐ熱い食品を折り詰めにすることは避け、よく冷やしてから詰めあわせること。

食品は清潔に、調理は新鮮なうちに、保存は低温で



食中毒に気をつけよう

みなさんの愛の献血を

○5月28日
登民会館前
13時～15時



一口メモ

赤痢の発生する時期です

- 次のことを励行しましょう
- 用便のあと石けんを使い流れ水で充分に手を洗いまししょう。
- 食品は清潔な店から買い腐りやすいものは買いためしないようにしましょう。

赤痢の予防

○食事の前と外出後は手を洗い口をうがいましょ

○ハニによる媒介を防ぐため、便つば内に、ハニ殺しなどの薬を投入しまししょう。

